

金を、北朝鮮へ送金し続けてきた。

あの独裁国家を支えてきたのは、在日社会でもあるのだ。

例えば、一九一〇年の朝鮮併合以来、悲劇は現在にまで続いている。三十六年間の日本統治時代、朝鮮戦争、南北分断、帰国運動の悲劇など、そして極めつけが拉致事件発覚であり、在日同胞にとっても衝撃であり大いなる失望であった。

私は、ほかではない、在日同胞にも申したい。

これまで、在日が歩んで来た道程は厳しいものであった。

拉致事件以降、韓国籍に変える人、帰化した人は数知れず、それはそれで可能な限りの抵抗であるという見方もできるが、私はやはり自分さえ関わらなければよい、という在日のありかたにも疑問を呈する。

在日の皆様（帰化した人も含めて）、拉致事件をこのまま何も進展がないまま放っておくつもりですか？

北朝鮮のような野蛮な国家を、ただ眺めているだけで何か？ 朝鮮総連の実態を内外に告発するべきではないですか？

そのような邪悪な物から、わが子を守るべきではない

ですか？ ただ組織から離れて自分の道を歩めば、それでよいのですか？ そして、何も行動を起こさないといいですか？

日本の方にも聞きたい。我々のすぐかたわらにこのような学校という名の工作員養成所が存在するというのは、恐ろしいかぎりではありませんか？ 無償化云々以前に、存在そのものを消す必要があると思いませんか？

少なくとも、往時の純粋な在日同胞のための誇り高き教育を取り戻さないのであれば、総連や民族教育は害悪である以外の何者でもない。

私は、授業料無償化の議論より、在日のための組織ではない北朝鮮のためのスパイ組織を消滅させねばならぬことが喫緊であると確信する（もちろん、さしあたっては無償化断固反対である）。

心ある在日同胞の皆さん、いまこそ立ち上がるうではありませんか！

そして、心ある日本の皆様から、そのためのお力添えをいただきたい所存である。

(二〇一〇年十月三十一日)

朝鮮学校教育の抜本的改善を求める

総連への要望書

(一九九八年十二月五日)

東京朝鮮中高校・新校舎建設委員会 提出

一九九八年十二月に在日朝鮮人から朝鮮総連に出された民族教育改善のための要望書を抄訳して紹介します。全文はハングルで約四万字。東京朝鮮中高級学校が一九九八年十二月に十三億円かけて新築され、三五〇〇人の在日朝鮮人から寄付金が寄せられた、といひます。

その機会に教育内容も改善せよとの趣旨で出されたのがこの「要望書」。総連はこれに耳を貸さず、起草者などの犯人探し、や弾圧に終始しました。

朝鮮総連直営の朝鮮学校は、民族教育と称しながら北朝鮮の独裁体制と金親子をたたえる教育が中心。日本に住む実情を考慮した教育に改善すべきだとい

う在日朝鮮人の当然の要求すら耳を貸さない朝鮮総連の態度は、民族教育を自分たちの追従者育成につかおつとする北朝鮮の目的を示しています。

金親子の「偉大性教育」と呼ぶ個人崇拜教育などが生徒たちに二重思考を強要しているとして「胸が痛む」という率直な声や、もっと韓国のことや、金親子だけでなく朝鮮歴史上の偉人についてもきちんと教えるよう提言が盛られています。

また、専門教育も資格もたないままに朝鮮総連の活動に追われたイルクン（朝鮮総連専従活動家）の悲哀をくりかえさせないために日本で生きていく生徒たちに専門教育や国家資格を取らせるように対策

を立てよとも提言しています。一条校

(日本の学校教育法第一条に規定された学校で、いわゆる普通の学校——編集部注)に準じた法的地位をとることは「無眉の問題」としています。これは北朝鮮式教育からの根本的転換を意味します。

心ある在日が民族教育についてどう考えているか、日本国民が耳を傾けるべき真摯な提言といえます。いま問題になっている朝鮮総連系の民族教育を考

える上での参考資料として紹介します。この「要望書」は一九九九年一月十九日付けの「統一日報」に掲載されましたが、翻訳にあたってこれを参照しました。

(翻訳:「光射せ」編集部)

要望書

— 民主主義民族教育事業を改善、強化することについて —

民族教育フォーラム／民族教育の今日と明日／参加者一同

東京朝鮮中高級学校新校舎建設委員会
一九九八年十二月五日

序言

学生数急減に大衆が危機感 現職教育者も参加して集約

序言

内外の環境が非常に厳しい時期に、十三億円という莫大な予算で始まった東京朝鮮中高級学校校舎建設事業は、数多くの同胞学父母、卒業生、そして一世たちの熱い愛国至誠によって成果的に進行し、締めくくりに至ったこととなった。三年間にわたり進行した今度の運動は、

同胞学父母に寄金協力を訴える運動であると同時に、彼らに民族教育の重要性をよりいっそう知らせ、その大衆的基盤をいっそう固めるための運動でもあった。当然、同胞たちの中から民族教育に対する期待と希望の表現として、色々な意見も数多く提起された。

彼らの意見は主として二つに要約できた。第一に、半世紀にわたって進められた民族教育が、在日朝鮮人社会とその運動において成し遂げた成果と業績に対する再確認だ。

・複雑な歴史的時代と多様な社会環境の中で、半世紀の間民族教育は、紆余曲折を経ながらも基本的に正当で正しい道を歩いてきた。

・民族教育はその当初から今日まで常に、民族教育を抹殺しようとする内外勢力との闘争の中で練り広げられ、勝利してきた。

・民族教育は在日同胞の中で民族性を維持し、総聯組織を強化発展させ、祖国の隆盛繁栄に寄与するにおいて、世界に

例のない成果をあげた。

・民族教育が今日まで維持発展してきたのは、欽慕してやまない故金日成主席と金正日將軍の愛と配慮、社会主義祖国の庇護があったからであり、在日同胞が総聯組織に固く結束して民族教育を守ってきたからだ。

・民族教育はわれわれの誇りであり、二十一世紀にいっそう発展させていかなければならないわれわれの貴重な財産である。

第二に、二十一世紀を展望しつつ、大きく変化する内外環境に合うよう、われわれの教育を抜本的に改善しなければならぬという切実な要求だった。

在日五十年、解放された民族の成員としてここ日本に堂々とした同胞社会を形成して暮らしつつ、今や半世紀を迎えるその間、同胞社会も大きく変わった。

五十年の歴史を経たわが民族教育も、内外環境の変化に合うよう、当然、改善していかなければならないというのは、すべての同胞の共通の指摘だった。

彼らは一様に「学校を守ってほしい。そ

のために新校舎が必要なら協力する。環境が大きく変わったのだから教育内容も改善しなければならない。学生数が急激に減っている現実と、その原因を直視しなければならぬではないか。いつまで出生児童数が減ったということを口実にするのか」と言いながら学校教育の改善を要求し、「意見を出しても聞いてくれる所がない」と言いながら、「学校教育の改善になる建設であれば、微力ではあるが協力する」と言った。

それぞれ改善策についてはさまざまな意見があったが、これは決して一部の意見ではなく広範な大衆の意志だった。同胞たちが最も憂慮し、寂しく思っているのは、学生数が減り続け、同胞社会の求心点としてより大きな役割を果たせなくなっていることだった。

一言で学生数が減っているというが、その速度は非常に速い。

われわれの知る初歩的な範囲だけでも、東京中高級の学区制管下の中級学校では、毎年五十名に達する学生が日本学校に転出しており、今年はすでにいくつかの学

校で少なくとも学生が日本学校に転出する意思を示しているという。

新世代（三、四世）学父母の教育観は、過去の時代の価値観とは違うという確かな表現と見ることができよう。

彼らの意見に多少でも耳を傾けなければならぬ。

われわれは同胞学父母のこうした意見をきわめて重視した。

しかし、一言で学校教育改善といっても、その内容は膨大であり、意見を総合するといっても、それは決して単純な作業ではない以上、学校と組織を守ること、大前提に、慎重に検討するため、新校舎建設委員会の一つの部署として民族教育研究班というものを設置することになった。

もちろん、形だけ作って終わりにするだろうと半信半疑の人たちもいたが、民族教育研究班を作ったことに対する反響は意外に大きく、「建設委員会は本場にわれわれの意見を総合して反映するつもりがあるようだ」と言いながら、早い時期にフォーラムのようなものを開いて、一

次的に意見を総合しなければならぬという提案が非常に多く出された。

こうしてわれわれは三回にわたる準備委員会を経て（九八年）四月二十五日と十二月五日に「民族教育フォーラム」を二回にわたって開くことになった。

ここには延べ〇〇〇名の（伏せ字は原文のママ）学父母、卒業生、現職教育専門家、有識者らが参加した。

集いではそれぞれの見解に従って、民族教育が在日同胞社会と個人の社会生活において果たしている肯定的な役割の面を認めつつ、現時点での民族教育の現実を憂慮して改善すべき点について〇〇〇名が約〇〇〇時間にわたって討論した（伏せ字は原文のママ）。

フォーラム参加者は全員、この集いをただの討論で終えてはならず、大衆の要求、希望、意見の内容を総合、整理し、文書化して当該機関に反映するよう要求した。大衆的な討論会を開いたり、文書化するについては色々な意見があったが、われわれは日ごとに危機感が高まっているわが教育の現実を照らして、多少でも民

族教育発展に寄与できればよいという期待と自負をもって、集いを組織し、その結果を文書化することにした。

この困難な時期に同胞学父母、卒業生の貴重な金を十三億円も集めて学校を建てたものの、入学する学生が減ったというのでは何になろうか。

そこでわれわれは、フォーラムの結果とともに、聴取した教育事業に対する意見を整理総合し、総聯中央に反映するのが、今日の時点で教育発展に肯定的な役割を果たすと確信したのである。

民族教育事業は、課程（カリキュラム）案、教科書、教員養成、学校運営、教育権利擁護など、膨大な分野で構成されている。

これに該当する意見をすべて盛ることはできない。

ために、われわれは同胞の要求が特に多く、至急な対策が要求される教育の理念、教科書、課程案、学生教養、チマチョゴリ問題をはじめとするいくつかの問題についてののみ取り扱うことにした。

これを作成するにおいて学父母、非学

父母、現職教育者、有識者の意見を、時間が許す限り聴取し、教科書はもちろん専門資料も少なからず研究した。

総聯中央では、要望書を上げることになった趣旨を深く理解して、内容を検討、民族教育改善対策の参考としてくれればと思う。

I 民主主義民族教育の理念

祖国と異なる在日民族教育 民団、中立層も入る学校に

I、21世紀新時代と民主主義民族教育の理念

時代の変化とそれに伴う民族教育の使命、理念に関する意見が数多く表明されたが、それを総合整理すれば次の通りだ。民族教育の使命、理念問題を考えると、次のような視点に立たなければならぬ。

第一に、教育の理念、使命は、一般的

にはそれを実施する国家の性格、理念、使命に準じて規定される。

しかし、民族教育は祖国と対立対峙状態にある日本という環境のもとで、在日同胞の力で運営されているが、その運営の主体を構成する同胞たちの政治的、社会的構成は大変複雑だという点である。

従って民族教育は祖国で実施されている社会主義教育とは異なり、在日同胞子女を対象に実施される。しかし、民族教育であるかないか境界があいまいな教育ではない。また、日本学校とも異なる特殊性と独自性を持たざるをえない。

われわれの民族教育は、精神的に祖国との一体性を堅持し、祖国の統一と同胞社会の維持、強固化、発展を志向する在日同胞の民族教育である。

第二に、教育事業の一般的性格からして民族教育も在日同胞社会の要求を満たす教育とならなければならないという点である。

祖国の統一、国際化と情報化の促進、同胞の永住志向、民族的和解と相互理解、協調と団結が、在日同胞をとりまく新時代

の特性、要求であるとみることができ。まわれわれは民族教育の理念、使命に、下記のような内容が盛り込まなければならないと考える。

1、朝鮮民族の言語、歴史、文化、伝統を教えることによって、学生が民族自主意識と矜持感を持ち、民族の成員として十分な資質を持つようにする。

ここでは、今日まで民族教育を固守発展させるにおいて祖国の支援が極めて大きな力だったということを認識把握すること、民族和解、団結の精神の下に民団系同胞、中立層同胞など、より広範な同胞の子女も広くわれわれの学校に入ることでできるよう、南朝鮮についてももっとよく教えることが重要であろう。そうして学生たちが祖国の統一と民族の繁栄、在日同胞の団結と同胞社会のために献身する精神を培養しなければならぬ。

民族精神培養においては排他的な民族主義傾向を警戒しつつ、他者との差異を互いに認め、理解、尊重する原則の下に、日本人との友好親善を深めることによつ

て在日同胞の居住権、生活権、企業権をより確固と確かめることが重要だと指摘された。

これとともに男尊女卑、ゆきすぎた長幼の序のような古い封建儒教思想と風習をもとに警戒することが重要だと指摘された。

2、国際化、情報化時代が全面的に開花する二十一世紀に活躍する学生が、日本に暮らしながらも統一祖国で、日本で世界で活躍することのできる人材に立派に成長するよう、科学知識と技能を培養する一方、学生たちの個性を尊重し人間性を豊かに培うようにする。

3、民族差別と人種差別、性差別、障害者をはじめ社会的弱者に対する差別など、人間社会のあらゆる差別と抑圧に反対し、社会的公正と平等などを希求する教育とならなければならない。

民族教育の理念、使命は以上のような内容を盛って、一言で下記のように規定されるのが望ましい。

学生たちを民族自主意識と国際性、日本社会で立派に生きていける力を持ち、

祖国の統一と民族の繁栄、同胞社会の発展のために献身する愛国愛族人材に育成する。

II 教育内容

朝鮮語と朝鮮史を核に改編 在日式朝鮮語からの脱皮を

II、課程案（カリキュラム）編成と教育内容および水準上提起されるいくつかの問題

課程案編成と教育内容は、学校教育の目的達成のための里程碑と具体的工程を明らかにすることによって、教育の佳格、水準を決定する最も重要な問題だ。

大多數の同胞大衆は、九三年〜九四年に全面改編された課程案と教科書内容を歓迎しつつも、その再検討を要求している。

それは、

第一に、情報および経済の国際化の促進、民族紛争の激化など時代の変遷と、偉

大なる首領の逝去、朝米関係の変化、共和国での憲法改定、金大中政権の登場、南北朝鮮の経済危機など、急速に変化している朝鮮半島の政治経済、社会的様相を内容上盛りこめないからであり、

第二に、新課程案以後の朝高卒業生の民族的、特に言語的素養と知識技能水準が決して望ましい程度に達していないと感じており、

第三に、現行課程案と教科内容が、それぞれ異なる思想と信条および人生観を持つ非総聯系同胞たちの理解を得ることができないばかりか、わが組織に網羅されている同胞たちの要求と意見を十分に解決できないからだと考える。

総聯組織に網羅されているか、その周りにいる同胞たちの社会政治観、歴史観、人生観は決して単純ではなく、民族教育に対する意見も事実、多様である。

その現実を認めつつ、今度の「民族教育フォーラム」に参加した同胞と、この二年間に聴取した数多くの同胞の教育内容および水準に関する意見を最大公約数で総合整理すれば、次の通りだ。

1、わが学校ではあくまでも国語（朝鮮語のこと）と朝鮮史教育を基本とする民族教育が実施されなければならないということだ。

（1）「国語」教育

国語教育は民族教育の核であり、すべての授業が国語で進められている条件下では国語の実力向上がそのまま学科実力向上のカギでもある。

しかし、わが学校では時間上、内容上多くのものを与えており、教育経験はすでに五十年余りを数えるにもかかわらず、その実効性をよく現すことができない。

高級部（高校）卒業生の国語の実力は、会話能力の平均水準で見れば、語彙表現数は三千以下で、本国人民学校（初級学校）低学年の水準に留まっている。

発音や抑揚（イントネーション）でいえば、在日朝鮮人式朝鮮語といえるほど、正確で美しい国語とは距離がある。△国語教育を改善するに於いての政策的意見は次の通りだ。

①教員の国語実力、特に発音、抑揚、表現能力が正確で豊富になるよう再教育を絶えず実施しなければならない、学生の思考において基本言語が日本語であるだけに、国語教員だけでなく、すべての教員が比較言語学的知識を必ず培わなければならない。

②学生に与える語彙は生活用語を基本に頻度数の高い語彙から精選して六、七千程度に削減するのが望ましい。

現在、初級高級学校では九五二五の単語を扱っているが、これでは消化不良とならざるをえない。

言語技能は「読み、書き、聞き、話す」、その中でも最も能動的で積極的な言語活動である「話す」を繰り返し繰り返し行う過程を徐々に高めるということは、公認された事理だ。

（2）「朝鮮歴史」科目

朝鮮史科目は民族教育のもう一つの核だ。

在日朝鮮人学生にとってこの科目は、単純な歴史知識伝授科目ではなく、民族

われわれは何よりも「朝鮮史」時間数を大幅に増やすのが望ましいと考える。

（中略）

民族常識の愛国者ら教えよ 韓国も教え愛郷心持たせよ

（3）「現代朝鮮革命史」科目

この科目は中三から高三まで全学年で多くの時間が配当され、重要科目として扱われている。

元来、二十世紀の朝鮮現代史を扱い、故金日成主席と金正日將軍の偉大性、指導の賢明性を教えることを目的としている。

最近一、二年の間にこの科目は『金正日同志革命歴史』の内容を中心とする科目として新たに編成され、教科書の分量も増えて、配当時間も過当たり二時間から三時間に増えた。後に見るように、担任教員による教科書課程案外的な教養時間、間に推進される將軍に関する教養、朝青、少年団で推進される教養などが二重、三

△この科目の位置、重要性、内容の膨大性に比べ、現行課程案上、深刻な問題性、

①決定的にその時間数が不足することと、現代史との時間配当上、均衡が取れていないことであり、

②歴史教育の始まりが初級六年生で、遅いということだ。

（中略）

△こうした課程案が編成された原因は、八〇年代に入ってから、△国際化時代の到来△教育の実効性△問題が強調された余り、△英語△日本語△外国語科目と理科科目が質量的に大きく増え、相対的に△朝鮮語△音楽、美術△科目が削減されたが、その均衡をよく取らなかったところがあり、△朝鮮史△科目が占める重要性に対する誤った判断に起因する。

△政策的意見

皇に重なり、この科目の実効的推進には問題が多いと考えられる。

△政策的意見

われわれは、この科目が次のように改編されることを望む。

①科目名に必ず「革命」の二文字を入れる意義を求めることはできず、日本の環境を考慮するとき、△朝鮮現代史△と変えるのが望ましい。

②内容上、現在あまりにも少なく扱われている解放前の海外独立運動、国内独立運動と反日闘争、啓蒙運動と労働闘争など、批判的な見地からでも広範な民衆の活動を、より幅を拡大して扱わなければならないと考える。

例えば「上海臨時政府」の活動、ロシア沿海州での反日独立闘争、「一九二〇年代の李青天と青山里戦勝勝利」李奉昌義士と尹奉吉義士の義挙、「封建的社會身分制度の撤廃のため闘った張志弼、愛国詩人尹東柱、植民地の悲哀を映画で描いた金幽影、反日歌曲「鳳仙花」の作曲家・洪蘭波などなど、一般的にわが民族成員の間に広く知られている史実は批判的に

でも一定の取り扱いがなされなければならないと考え。

③また、解放後の南朝鮮人民の闘争と活動、例えば金九、呂運亨、曹奉岩のような人々とともに済州島四・三蜂起の指導者・李徳九、智異山バルチザンの大將・李鉉相、パリで客死した抵抗画家・李応魯、民族文化財の海外流出を防いだ教育者・全鑒弼、植物育種学者・禹長春、張俊河、文益煥牧師のような民族史発展に肯定的で進歩的役割を果たした人々の多くの活動と南朝鮮の政治、社会、経済的変遷についても当然わが民族の歴史として取り扱わなければならないだろう。

(4) 南朝鮮をもっとよく教えることについて

民族に対する愛と理解を高めるにおいて、学生たちに祖国南半部と自分の故郷を教えることは、また重要な問題だ。

しかし、現行の課程案を見ると初5、中1で教える「朝鮮地理」を除いて人文科学系では南朝鮮問題を扱った教科書内容とその分量は非常に少ない。

述)

②海外同胞問題の取り扱いの必要
在中、在露、在米など約五〇〇〜六〇〇万を超えるという海外朝僑たちの問題、つまりその歴史的経緯と状態、活動も必ず扱う必要があるはずだ。(中略)

③教科書で扱う内容の精選と分量の調節

全般的に各学年ごとに社会教科書の分量が多く、学生がよく消化できずにいるという指摘が多い。

特に、高級部でその傾向が見られ、高3「社会」内容である人類思想史、主体思想、主体の人生観の分野は学生たちが非常にむずかしがっており、改善対策が要求される。

④担当教員の再教育と担任教員の養成
この科目が扱う包括的内容に対応する専門教員を朝大で養成できずにいる条件の下で、担当教員の個別水準によって授業の質の差が甚だしく表れている。ごく一部の大規模学校を除いては、卒業した学部に関係なく、授業時間数が比較的少ない教員が誰でも担当しているのが現状

「現代朝鮮革命史」で南朝鮮人民の民主化闘争を内容に高1の時期に一一／一九五ページ、高2の時期二五／一三八ページ、高3時期二八／二二七ページ、総六四／五六〇ページ(一一%)にすぎず、「社会」教科書では初4から高級(高校)まで一言半句も扱われていない。

半面、今日、南朝鮮については新聞、雑誌、テレビを通して情報が毎日のように紹介されており、最近では南朝鮮のテレビ放送も同時放送で自由に見ることができるようになっている。

こうした情報の洪水から学生たちの耳目を遠ざけることはできないのであり、学生たちはその影響を受けながら自分なりの八南朝鮮社会相／を認識して育てていくのが現実だ。

これが学生たちの祖国観において「二重思考、二重基準」とよばれる精神世界の二重性形成の原因となっていることを、胸痛く思う。

われわれは「現代朝鮮史」科目や主に「社会」科目を通して南朝鮮の政治、経済、社会、文化などを批判的に事実の通りに

であるが、この教員たちに対する再教育とともに朝大で対策が立てられなければならないだろう。

Ⅲ 学生課外教養

永住志向時代に旧態依然だ 日本学校への転出の原因に

民主主義民族教育で政治思想教育とよばれる、正規課程案以外の学生教育が学校の重要な柱の一つと設定され、本格的に推進されはじめたのは、六〇年代に祖国の社会主義教育で①政治思想教育②知識技術教育③体育教育が社会主義教育の三大柱と設定されてからのことだ。階級闘争を前提にする社会主義制度下での合法的な要求による思想教育事業が日本での民族教育の重要な柱となったのは、在日同胞の多数が社会主義を標榜し、社会主義祖国、統一祖国への帰国を志向した

当時には自然なことで、相応の成果をあげた。

学生に教える必要があると認める。

その内容について評価と根拠を正確に教えることによって、学生たちが南朝鮮社会を見る眼を育てるであろうし、次第に弱まりつつある祖国南半部と自分の故郷に対する愛と関心を高めなければならない。

2、いくつかの教育についての意見

(1) 「社会」科目

わが学校の「社会」科目は、初3から高3まで毎学年ごとに与えられている科目で、内容上では共和国北半部と在日同胞問題から日本の政治、経済、文化、歴史、世界の文化、人類思想史、主体哲学にいたるまで包括的な人文科学として編成されている。

現行課程案の教科書に移行した時、学父母と学生から好評を得たのは、日本分野を新しく扱うことになった点だ。

△「社会」科目で提起される問題は次のとおりだ。

①南朝鮮問題取り扱いの欠如(内容上

偉大性教養、忠実性教養、社会主義愛国主義教養、革命伝統教養、階級教養、共產主義道徳教養などが、その重要な内容だった。

時代が変わり、世代が交代して、帰国志向から永住志向に同胞意識が変化した今日、大多数がわが学校の学生教養事業は日本の実状、条件、環境に合うよう、同胞の要求志向に合うよう、その内容が編成され、方法が改善されることを望むのは自明の理であり、自然なことである。

学校正規課程案と教科書はこのような要求を反映して、何回も改編され、一定の前進を見た。これに比べ、学生教養事業は旧態依然であると指摘される。

1、今日の学生たちに対する教養事業の問題点は次の通りだと論議された。

①偉大性教養、忠実性教養の内容と方法、日本のマスコミをはじめ様々な影響を受けている学生たちの現実、心理を十分に考慮せず、彼らの質問、疑問、無関心をよく解決するようには組まれていない。

内容上では祖国のものを丸ごと与え、

方法論上では一方的な説話、提綱伝達、講義、映画鑑賞、指定図書読み合わせと決議集会などなどによって進められているところ、学生たちが疑問を解消しながら消化することによって、世界観、人生観を形成する工程が欠如していると考えられる。

しばしば教条的だ、機械的だ、注入式だと指摘されるのは、こうしたことを指している。

②また、基本教養が正規授業内容、朝青、少年団での教養、各種行事を通しての教養などと二重、三重に重複する結果、一部では倦怠症現象が現れている。

③学生たちのための教養事業は、祖国北半部に関する内容から南朝鮮問題、時事問題、国際問題、人権問題などなど多様な内容をもって構成されなければならないのに、基本教養に集中し、均衡が取れていないのである。

人権など国際価値と均衡取れ「自爆」など過激用語使つな

⑤学生教養事業には問題が多く、日本の実情に合うよう実施してほしいという声が同胞たちから出て久しいのに、組織的に何が問題で、どう改善すべきかに対する研究も不足し、同胞たちとの協議もなく、対策もよく立てられていない。

憂慮されるのは、このような結果、学生たちの中で教養事業に対する倦怠症が出、内心で拒否反応まで引き起こしており、祖国観、組織観において二重思考が形成されることにより逆効果現象も発露させている。

特に、非総聯系統の同胞たちはもちろん、わが組織に網羅されている同胞たちの中でも意見が多く、それが民族教育の門戸を狭め、日本学校への転出を防ぐ要因の一つとなっていることが、胸痛く感じられる。2、わが学校での学生教養事業は、次のように実施されるのが望ましい。

その内容上から見ると、

①朝鮮民族の優秀性と独自性、外圧に対する抵抗精神と美風良俗など民族をいつそう知り、誇り、愛し、

②祖国統一を志向し、

③父なる首領と敬愛する将軍を敬慕し、祖国を支持声援し、

④自分の故郷と祖国南朝鮮をもつとよく知り、愛し、

⑤総聯組織と在日同胞のために献身する精神の培養を基本にして編成させることだ。

これとともに、国際的な共通価値観としての道徳教養、情緒教養、平和教育、多文化教育、生命と個性および人権の尊重、社会的弱層に対する配慮、環境保護などなど多様な教養内容が基本教養との均衡の中で推進されることが、また望ましい。教養活動上いくつかの留意点が論議された。

第一に、過激な用語、軍事用語の使用を控えるということだ。

「近衛隊、決死隊」「親衛隊、突撃隊」「決死擁護」「銃爆弾精神」「自爆精神」「忠臣、奸臣」などなど一般的に日本の環境

に合わない用語は使ってはならず、その意味は別の表現でも十分に表すことができる。

政治思想教養という用語も「思想を強要する」「政治教育を強くやられる」という不必要な誤解を生むから、単に「教養事業」と表記すれば十分なはずだ。

第二に、学生たちの自立性、自主性をより高める方向で教養事業と組織生活を実施させる点だ。

同胞たちの中で「管理教育が余りにも強すぎる」という指摘があった。

学校はもちろん学生を厳格に指導し、一定の管理を行わなければならない。

しかし、それとともに学生たちが主体的に思考し、判断、活動し、総括することができるよう指導することが教育の重要な任務であるはずだ。

例えば、班長、小組、役員の選出、班、小組、事業の活動は学生に任せるなど、朝青、少年団事業、小組事業では学生の主体的で自由な活動がより保障されなければならないと考える。

朝高生たちに自分の意見を言ってみよ

といったとき、すぐに話せないのは言語表現上の問題もあるが、幼い時から管理教育に慣れすぎた半面、自分の頭で考え、それを表現し主張する訓練、経験が欠如していることに起因している。

△教養活動について、こうした問題とともに高級部一部選抜学生（汎注・総連の専任活動家にするため目をつけた一部の生徒にたいする特別工作）に実施されている組織的な指導活動についても論議された。

われわれはいかなる形態であれ、未来の在日同胞社会を引き受けていく後備幹部たちをよく育てることが重要だと認めつつも、現行の一部選抜された学生への活動は抜本的に改善されなければならないと考える。

わが学校には優秀な学生が多い。今後の後備幹部育成活動は、あくまでもその学生の素質と希望、気質と体質、家庭環境などを十分に考慮して、その学生に合う専門家への育成という方向で、内容と方法が再定立されるべきだとわれわれは考える。

Ⅳ 至急対策項目

専門知識と資格を

朝鮮大も再検討を

1、高級部学生に対する進路指導と就職斡旋問題

今日、学生をとりまく社会経済環境と諸条件は大きく変化しており、進路問題にも多くの影響を与えている。政治情勢は引き続き錯雑としており、特に在日同胞の経済生活は不安定化が促進されている。

卒業生を多く受け入れた総聯の各級機関、団体、事業体の人員縮小によって就職の門戸は狭まった。

日本社会の保守化、右傾化と経済の縮小から見ても、わが学生の就職、日本社会への進出は、今後もっと難しくなると憂慮される。こうして子息の進路に対する学父母の不安は増大している。

専任活動家、小規模商工人、一般同胞を問わず、次代に渡すほどの企業、財産

のない同胞たちの一部は、子息をなにかの専門家に育てようと、組織と学校に依拠せずに中学のころから対策を立て、個別準備をさせている。遺憾にも日本学校にいちろの希望をかけ転出する人も決して少なくない。

諸般の事情を考慮すれば、わが学生にとって特に重要なのは、専門知識、技術技能と、相応する国家資格を取得することだ。専門知識と資格のない専任活動家は、今後大衆の信頼を得ることができず、その指導性も保障できないだろう。

国家資格があり、その水準が高ければ高いほどわが学生はたとえ日本社会でも堂々と働くことができ、それは在日朝鮮人の相対的地位を高める力にもなる。水準ある国家資格取得の道は決して容易ではない。高等教育（大学）進学率が高まっている日本学生の実態から見ても競争は高まるであろうし、わが学生にはより周到な準備と多くの努力が要求される。

ところが、今日の現実を見れば、大多数の学父母は、在日朝鮮学生をとりまく進路問題に関しては、幅広い情報を持って

ないため、子供たちに対する具体的指導と教養を与えられずにいる。

また、はつきりした志向を持った一部を除く大多数の学生たち、特に男子学生たちも状況は同じだ。従って進路問題に関しては高級部学生たちの中に緊張感がなく、学習競争の雰囲気も不十分だ。民族性を育て、友達と一緒に小グループ活動を楽しむのが学校の肯定的側面であるが、社会経済の変化を見る時、全般的教育改革とともに緊急の進路対策が要求されると考える。

これに関連して朝大問題が論議された。今日、朝大志望者数がだんだん減少しているが、それは朝高教員が教養をよく与えられずにいるからではなく、朝大への学父母と学生の支持が低まり、憧憬の対象でなくなったからだ。

それは学部、学科の構成のような単純な問題ではなく、大学教育の目的、教授教養の内容、学生組織生活、進路問題など、より本質的で総合的な問題であろう。学生が行きたがる大学へ、実効性をもつと感じることのできる大学へ改革される

ことを望んでいる。

△われわれは次のような対策を組織と朝高が至急立ててくれるよう望む。

第一に、定期的に一次的進路指導を中3初に実施し、学生たちへの教養とともに、学父母たちとの個別活動が進行しなければならぬ。そうしてこそ日本学校への転出を未然に防ぐことができ、学父母たちと学生たちに抱負と希望を抱かせることができ、一定の緊張感も与えることができるだろう。

本格的な進路指導は高1の一・二学期から始めるが、学校責任活動家と担任、学父母、学生が面談の席を同じくして方法よく進めるのが望ましい。この時、学生の能力、気質、素質、可能性が客観的に評価されねばならず、父母と学生の希望を尊重する方向で一致を見なければならぬ。

第二に、内容上では、一般教養とともに学生、学父母に一般的に現在可能な色々な選択肢とその難易度、朝大、日本の大学受験と外国留学のための各種行政上の手続き要領、受験準備のための方法

論など、客観情報は情報の通りに提供、説明されなければならない。

第三に、少なくない日本の大学希望者が高い金を払いながら日本の通信制高等学校と学習塾に通っている現実を考慮する時、朝高で日本の大学希望者を無視するのではなく、彼らを積極的に励まし、専門家を連れてきてでも日本の大学受験にまとを合わせた課外有料特別授業を組織することも一つの方法であろう。

そうすれば学父母も安心し、学習雰囲気

の造成にもよい影響を与えるだろう。第四に、高級学校に進学、就職など進路問題を専任する部署、教員を置き、各種の求人情報を集中するよう特に望みたい。

高3学生の祖国訪問問題

八一年度から始まった高3学生の集団祖国訪問は、一方では祖国の事情が安着していた事情もあり、他方では模範創造運動と結びついて教育教養的な効果をあげた。

九〇年代に入っただ、色々な事情が変わり、問題が発生することになった。何よりも祖国の困難な現実を直接見聞さす

る過程で、学校教育の内容との乖離に矛盾を感じる学生が少なくなく、ひんぱんに起きる色々な事件、案内員たちとの摩擦、集団的伝染病感染などなどの問題は、祖国訪問それ自体の教育、教養的意味を疑わせる原因となり、一部に中断、中止の声もあがっている。

われわれはこのような事情を考慮しても、祖国訪問の意義は残るものがあると考えるところ、次のような対策を立ててくれるよう希望する。①祖国訪問時期は、進路問題と関連して忙しい高3の時期を避けて、高2の時期に実施する。

②祖国の困難な現実をどう見るかについて十分な事前事後教養をもつとよく行う。

③衛生健康管理問題をはじめ周到な行政的、実務的準備を行い、父母が子供を安心して送ることができるようにする。

5、学生を諸般の政治組織行事に動員することをできるだけ控え、学業に集中させることについて

学父母の要求を反映して最近は行事に動員する回数は少なくなっているが少年

団祝賀会、野遊会、大会「朝大生」などへの動員の機会が多い。学校はあくまで課程案の執行を最優先させるべきだ。

V 民意の制度化

大衆に依拠し民主的決定を東西日本に各2分科委設置

V、教育事業に対する民意反映の制度化、組織化

同胞たちの中から、△教育事業に対する自分たちの意見を、裁量権を持った部署に正確に反映するようにしてほしい▽△疑問、質問、意見に対しては回答してほしい。民族教育事業は、同胞大衆との論議を経て実施されなければならない▽△大衆の意向を反映、具現化することのできる「教育審議委員会」のような制度、組織を打ち出すべきだ▽という意見が少なからず表明された。

過去、一世同胞父母たちは教育権擁護

闘争や運営事業には熱心に参加したが、いその他の問題については専門家に任せられた。

今日の学父母を構成する二世、三世はみな高等教育またはそれに準じる教育を受け、自身の価値観、教育観を持つており、その実現を望んでいる。併せて一世と同じく、自分たちが民族教育を守っている一成員だという強い責任感も持っている。従って、同胞学父母が、民族教育の様々な様相を見て意見を出すのは自然なことであり、それはまた、民族教育に責任を負うとの意志の表明でもある。

大衆の声に耳を傾け、意思疎通をより潤滑にし、学父母の要求を教育事業に反映していくことは、民族教育事業の大衆的地盤をしっかりと固めるにおいて決定的な意義を持つはずである。

われわれは、民族教育活動を大きく改革しようとする今日の民意をできるだけ広く反映する制度と組織を打ち出すことが、民族教育発展において肯定的で積極的な措置となるものと確信している。かつて、部学父母を網羅した「民族教

育対策委員会」のような機関を組織的に作ったが、世論を喚起することなく、専任活動家中心に方針執行のための機関として組織されたせいか、いくらかたまたに有名無実化してしまつた。

組織化、制度化で重要なことは、非専任活動家、同胞商人、学父母、有識者を中心に構成することであり、彼らが主人公となつて自分の頭で思考し、自ら活動するようにすることだ。また、初めから膨大な活動内容を盛り込まずに、民族教育事業に対する学習研究と広範な意見の収集、整理、総合のような最も初歩的でありながら現実的な要求を扱う活動から始めることが望ましいであろう。

従って、課程案と教科書内容を主に研究、討議、審議する「課程案教科内容分科（第一分科）」、学生教養と朝青、少年団事業、小組活動、進路指導、制服問題など課外生活問題を扱う「学生教養および課外生活分科（第二分科）」のような二つの分科を西日本、東日本地方にそれぞれ作る程度が現実的で実行的だと考える。この問題で特に重要なことは、民主主

義的方法を経て集团的に、出された意見は最大限尊重しなければならず、組織的に一定の回答反応を公的に与えることである。

莫大な労を払つて意見を出しても、反応がなく、無視されるなら、大衆は二度と再び意見を出さなくなるだけでなく、次第に協力もしなくなり、顔をそむけることになるだろう。

次に、大衆の質問、意見をよく聞いて、回答を出すシステムを構築することが緊要だ。

これは特別複雑な問題ではなく、中央単位で意見、質問を接受するFAXを設置し、その番号を新報（訳注―総連の機関紙朝鮮新報）や学校教育網を通して広く知らせさえすればよい。寄せられた意見、質問に対しては発信者の身分と発信の事実いかなを確認した後、回答をFAXですればよい。

これは民主主義制度下で市民の権利、行政の義務として広く定着しているシステムであり、わが組織もそれと似た制度を作ることは、大衆との直接的な意思疎

結 び

通の道を開くことであり、大衆の支持と賛同を得るだろう。

現地適合は金正日書記の教示「準一条校」の地位をめざせ

結 び

民族教育の最初の鐘の音が響いてから、五十三年がすぎた。

様々なあい路と難関、抑圧と弾圧の試練の中でも民族教育の灯は決して消えず、数多くの総連の働き手を育て、数十万の同胞に民族の魂と言葉と文字を与えた。

今日、日本で思想、政見は互いに異にしても、少なくとも民族を守り、民主運動をするという数多くの人々の大多数はやはり民族教育の中で育った人々たちである。

この民族の大義、社会的正義のために数多くの教育者たちが青春の情熱を捧げ、最後まで教壇を守つてこの世を去つた方も多い。今日また、これらの先生の意志

を継ぎ数多くの教育者の働き手たちが民族教育の灯を明るくともしている。以身作則（訳注・北でよく使われることば、「率先垂範」）清廉潔白、簡素清貧の精神で昼夜奮闘されている数多くの先生方がおられるからこそ、われわれの子供たちの顔には笑みの花が咲き、学校の門は広く開いていることを、わが学父母と商人たちはよく知っており、いつも尊敬心をもって先生方に対する賛辞を惜しまずにいる。

尊敬する金正日將軍におかれては、次のように教示された。△総連は民族教育において主体を立て、教育の質を絶えず高め、現地の実情に合うよう教育の内容と方法を改善しなければならぬ△その方が教示されたように、民族教育は過去の成果にしっかりと立脚しつつ、日本の現地の実情に合うよう展開してこそ成果をあげることができようであろうし、言い換えればこの教示は現地の実情に合わないれば所期の成果を得ることができないだろうという意味に理解される。

「現地の実情」は五十余年の教育経験を

持ち、民族教育の長点と不足点、可能性と制限性、喜びと困難を毎日のように感じているわが教育の働き手たちと同胞大衆が最もよく知っているはずである。従つて今日、主人らしい立場をよりしっかりと立て、現地の実情に合う民族教育の改革と新しい発展のために、献身的に乗り出すことは同胞学父母、商人たちの責任であり、義務であろう。こうして見ると、われわれには不足点がある。

活動家たちには、現実、つまり同胞大衆の要求と志望を広く聴取、収集、分析、総合することによって彼らの意に合うよう教育教養事業の内容と方法を改善して行こうとする立場と努力が不足すると感じられ、学父母、商人には外国という条件の下で推進される民族教育事業の具体的内容に対するより深い把握に基づいて、建設的意見を上げるといふ姿勢と立場、行動が要求される。

重要なことは、虚心に学び、心を合わせて努力していくことであるはずだ。

一条校（注Ⅱ日本の学校教育法第一条

に規定された普通学校)に準じる法的地位をはじめ、包括的教育権をたたき取ることは、民族教育事業全般を拡大、強化、発展させるにおいて実際上かなめであり、焦眉の問題であることは、誰もが認め、また要求している。

われわれは、主観的にその要求が熟し顕在化している今日、この運動を、一大大衆闘争として繰り広げる必要があると考え、その実現を要請する。

今日、同胞社会をとりまく情勢は実に複雑であり、弾圧と経済難の中で危機感と不安は決して去らずにいる。しかし、われわれの信念と希望は決して死ぬことなく、在日同胞社会の発展と祖国統一のために寄与しようとする主体的力量も、彼らの勇気も生きている。

三千五百名を超える同胞が参加し十三億円という金を集め、新校舎を堂々と建てたことは、その証拠だ。

△民族教育フォーラム▽に参加したわが学父母、商人たちは、われわれを育ててくれた一世、二世たちの意志、民族教育のためにすべてを捧げて活動した数

多くの先生たちの意志を継いで、今後も組織の指導の下に教育働き手たちと心を合わせ、金のある人は金で、知識のある人は知識で、力のある人は力で、民族教育の花園を引き続き咲かせていくであろうし、同胞社会を発展させていくであろう。

最後に、総聯中央では私たちが提起するこの要請への検討事業を、一つの部署ではなく、総聯中央常任委員会的に広く深く検討し、至急、対策を立ててくださるよう要望する。



日本国民の税金を何故注ぎ込むのか

―朝鮮学校の教育内容―

山田 喜弘

ウリハッキョ (私たちの学校)
『ウリハッキョ 民族のともしび』村口敏也著 (新風社出版) という朝鮮学校を好意的にとり挙げている本から引用する。

「二〇〇三年度、朝鮮学校の教科書の内容が大幅に改訂された。それまでは故金日成主席を『偉大なる指導者』と崇め、その生い立ちや活躍ぶりを紹介することに相当なページを割いていた。『金日成物語』のような英雄伝が、民族教育の根幹を成していた。朝鮮戦争直後の復興期に在日に送られた多額の教育資金が今日の

朝鮮学校の礎となったことから、主席を賛美する単元は、非常に大きなウエイトを占めていたのである。だが、肖像画の撤去に象徴される『開かれた民族教育』への転換で、教科書の政治的、思想的な部分も薄められた。故金日成氏に関する記述は大幅に減り『大元帥』としていた肩書きも、『主席』に改められた。また、これまでほとんど記述がなかった韓国について詳しく触れ、その社会や生活について、カラー写真入りで紹介。

この本の著者は、朝鮮語がわからないので密着取材しても授業の内容等は

訃報 脇田 憲一様

本誌執筆陣のおひとりである脇田憲一さんが十一月一日逝去されました。享年七十五歳。脇田さんは本誌4号(2009年12月10日)に「朝鮮戦争に「参戦」した日本共産党―日本共産党史のリセット―」を執筆くださったのをはじめ、北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会員として、私たちの運動に多大のご尽力をいただきました。10月26日に大阪で行われた守る会関西支部主催の「光射せ」出版記念の集会」にもご参加くださり、心臓手術後の大変な時期にもかかわらず「きょうは気分がよいから」と二次会にもご参加くださいました。その一週間後の訃報です。あまりの突然に声もありません。謹んでご冥福をお祈りいたしますとともに夫人光子様、心からの悔やみを申し上げます。(萩原遼)(経歴)一九三五年愛媛県生まれ、一九五二年二月一七歳で定時制高校民青班から日本共産党の「中核自衛隊」に入り、同年六月の校方事件に参加し検挙される。保釈後、高校中退して日本共産党入党、翌年一九五三年九月、和歌山水害救援隊より「山村工作隊」(独立遊撃隊)に入隊。奈良県奥吉野地方の山村工作、大阪府下の基地工作に従事する。一九五五年七月、日本共産党「六全協」で軍事組織解散、党専従を解任。一九五六年四月から鉄鋼・金属の職場に入り、労働組合運動に専念する。著書に『朝鮮戦争と吹田校方事件』など。

わからない。本当に教科書の内容は変わったのだろうか。

実際に『現代朝鮮歴史 高級1・2・3 (日本語訳)』(星への歩み出版発行)に目を通してみるとやはり特異な内容であることがわかる。

この教科書には日本の教科書と同じようにふんだんに写真が紹介されているのだが次のような写真が繰り返して載っているのはやはり世界の教科書のなかでも異様なことだと思われる。

以下、写真の説明文を紹介したい。

「朝鮮人民革命軍の隊員のなかにいらつしやる、敬愛する金日成主席様」(高級1・10頁)

「平壤市歓迎群衆大会で演説なさっている敬愛する金日成主席様(一九四五・一〇・一四)」(同・13頁)

「二〇年ぶりに万景台の故郷の家を訪問なさった、敬愛する金日成主席様」(同・14頁)